

令和3年度（2021年度）版
環境基本計画年次報告書

～東海市の環境の現状と施策の展開～



東 海 市

令和4年（2022年）1月

目 次

成果指標の評価

1	重点プロジェクト「環境教育」の実施状況	1
2	成果指標評価表	
柱1	環境教育	
・ 分野1	環境教育	2
柱2	環境対策	
・ 分野2	大気・ばいじん	4
・ 分野3	悪臭・騒音	5
・ 分野4	水質	6
柱3	環境保全・再生・創造	
・ 分野5	地球温暖化対策	8
・ 分野6	環境美化	9
・ 分野7	緑・水・生き物	10
柱4	廃棄物・リサイクル	
・ 分野8	3R活動	13
・ 分野9	適正排出・処分	15

参考資料

1	環境基本計画の概要	17
2	環境の柱ごとの基本的な施策	19
3	成果指標の算出方法	21
4	成果指標一覧表	23
5	計画推進の検討過程	25
6	環境基本計画推進委員会委員名簿	26

1. 重点プロジェクト「環境教育」の実施状況

(1) エコスクール

エコスクールは、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、講座の中止及び定員制限により、実施講座は18講座（対前年度▲4講座）となり、参加者数も600人（対前年度▲710人）と大幅に減少しました。

一方で、世界的な潮流である地球温暖化対策の啓発として、地球温暖化対策DVD「ガラスの地球を救え！」鑑賞講座の実施や、これまで親子をターゲットとしていたエコクッキング講座について、社会人をターゲットに初めて夜間帯に実施するなど新しい試みを実施しました。

(2) 環境イベントによるきっかけづくりと仲間づくり

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、リサイクルフェアや東海秋まつりにおける環境ひろばなどのイベントが中止となりました。また、民間団体が行う環境イベントや活動についても多くが中止又は縮小となり、コロナ禍に対応したイベント等の実施方法が今後の課題となりました。

(3) 美しいふるさと東海づくり～生物の生息空間の保全・再生

ア 加木屋緑地において、ふるさとの自然を守る大切さを次世代に引き継ぐことで、持続的な市の発展につなげていくことを目的としている「ふるさと再生プロジェクト」を開催し、ヘイケボタル、アサギマダラをはじめとした自然環境と市民がふれあう機会を作りました。

イ 生物多様性の保全の観点から、新宝町におけるアルゼンチンアリの駆除を毎月実施するとともに、市に広く分布するオオキンケイギクの駆除に関して、コミュニティを通じた啓発及び広報への記事掲載やパンフレットの配布による啓発に取り組みました。

(4) 生活情報アプリなどによる情報提供

生活情報アプリは、平成28年（2016年）10月1日のサービス開始以来、令和2年度（2020年度）末時点で累計12,130件のダウンロードがありました。また、生活情報アプリ、コミュニティFM、ホームページ等でのごみの分別・リサイクル情報等の環境情報を発信した他、広報誌や太田川駅前デジタル掲示板に環境情報、エコスクール情報等を掲示しました。

2 成果指標評価表

基準値はH24数値。目指す方向性の欄は、目標値(R5の数値)がある場合はその数値を記載し、目標値がない場合は矢印で方向性を示すもの

環境の柱 1 環境教育

環境分野 1	環境教育	環境教育を推進する																						
成果指標 1 エコスクールの参加者数（人）																								
<table border="1"> <caption>エコスクールの参加者数（人）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加者数（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>971</td></tr> <tr><td>H27</td><td>857</td></tr> <tr><td>H28</td><td>1,139</td></tr> <tr><td>H29</td><td>1,371</td></tr> <tr><td>H30</td><td>891</td></tr> <tr><td>R1</td><td>1,310</td></tr> <tr><td>R2</td><td>600</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td></tr> <tr><td>R4</td><td></td></tr> <tr><td>R5</td><td></td></tr> </tbody> </table>			年度	参加者数（人）	H24	971	H27	857	H28	1,139	H29	1,371	H30	891	R1	1,310	R2	600	R3		R4		R5	
年度	参加者数（人）																							
H24	971																							
H27	857																							
H28	1,139																							
H29	1,371																							
H30	891																							
R1	1,310																							
R2	600																							
R3																								
R4																								
R5																								
成果指標の分析		目指す方向性																						
参加者数は、600人（対前年度比▲710人）で、基準値と比べ371人減少している。減少の要因は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、講座の中止があったこと、定員制限を設けたこと等によるもの。 【参考】実施予定講座数29講座、実施数18講座（対前年度比▲4講座、コロナによる中止10、荒天中止1）		増やす																						

成果指標 2 生活情報アプリの累計ダウンロード数（件）																								
<table border="1"> <caption>生活情報アプリの累計ダウンロード数（件）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>累計ダウンロード数（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>2,357</td></tr> <tr><td>H29</td><td>4,455</td></tr> <tr><td>H30</td><td>6,300</td></tr> <tr><td>R1</td><td>8,791</td></tr> <tr><td>R2</td><td>12,130</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td></tr> <tr><td>R4</td><td></td></tr> <tr><td>R5</td><td></td></tr> </tbody> </table>			年度	累計ダウンロード数（件）	H24	0	H27	0	H28	2,357	H29	4,455	H30	6,300	R1	8,791	R2	12,130	R3		R4		R5	
年度	累計ダウンロード数（件）																							
H24	0																							
H27	0																							
H28	2,357																							
H29	4,455																							
H30	6,300																							
R1	8,791																							
R2	12,130																							
R3																								
R4																								
R5																								
成果指標の分析		目指す方向性																						
累計ダウンロード数は前年度から3,339件増加した。広報、冊子「ごみと資源の出し方」等に継続して掲載し、PRをしてきたことでダウンロード数が増加したと考える。		増やす																						

1 前回（令和元年度（2019年度））の評価内容

エコスクールにおいて人数等だけでなく内容を含めて、より良い事業となるよう事業の実施方法等を含めて改善を図っていく。また、そのために実態をより把握できる指標・アンケート等を検討する。

2 令和2年度（2020年度）の主な事業等

【主な事業】

●（継続）エコスクール開催補助事業

市内や市外でエコスクールを開催するために、エコスクール実行委員会へ補助を行った。

(1) 実施講座数

18講座

(2) 参加者数

600人

●（継続）3R活動啓発事業

スマートフォンの普及に伴い、市民生活情報をアプリケーションシステム「東海なび」により発信した（発信情報：イベント情報、ごみに関する情報、避難所情報、公共施設情報等）

【改善点等】

（新規）地球温暖化対策のため、地球温暖化対策啓発アニメ「ガラスの地球を救え！」上映会を実施した。20名の参加があり、参加者による講座への評価は概ね良好なものであった。

（変更）幅広い年齢への環境学習の推進のため公募講座のエコクッキングを大人向け講座として開催した。17名の参加があり、参加者による講座への評価は概ね良好なものであった。

（変更）エコスクールの実態把握のため、参加者アンケートの内容を講座満足度を加えるよう見直した。令和3年度（2021年度）より変更したアンケートの運用を開始する。

3 令和2年度（2020年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

コロナウイルス感染症の中でも様々な工夫をして、環境学習を活性化してもらいたい。コロナウイルス感染症の影響により、エコスクールの参加者が大幅に減っており、正確に評価するのが難しい。エコスクールの満足度を指標として採用していくとよい。

アプリについて、若年層に浸透してきていると評価する。併せてホームページ等による情報発信についても評価できれば利用実態が把握できると思われる。

4 令和3年度（2021年度）以降の取組み方針

エコスクールの実施にあたり、新型コロナウイルス感染症の感染防止を徹底するとともに、コロナ禍でも実施可能な形を検討し、実行する。また、密を防ぐ必要性から参加者数の拡充が難しいことを踏まえつつも2部制での開催などの参加者が少なくならないよう工夫をする。

近年の環境教育の時流に沿い、SDGsやマイクロプラスチック対策に関連したエコスクールを開催する。

エコスクールの変更したアンケートの集計結果を踏まえ、講座内容の充実につなげる。

アプリに限らず、ホームページや広報等の情報発信媒体を活用し、啓発につなげる。

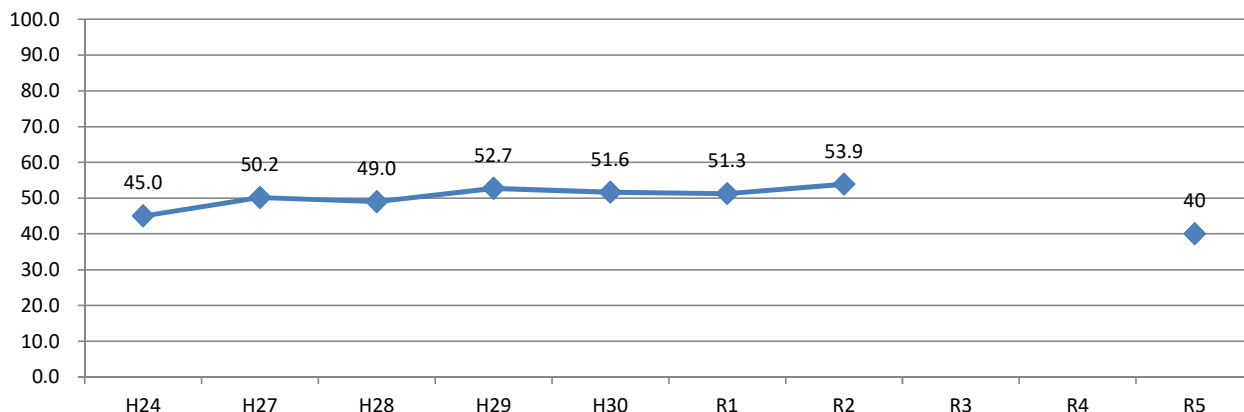
ごみの減量に向け、引き続き様々な媒体でのPRを行う。

環境分野 2

大気・ばいじん

きれいな空気を守る

**成果指標3 大気汚染などにより、日常生活に支障があると
感じている人の割合(%)**



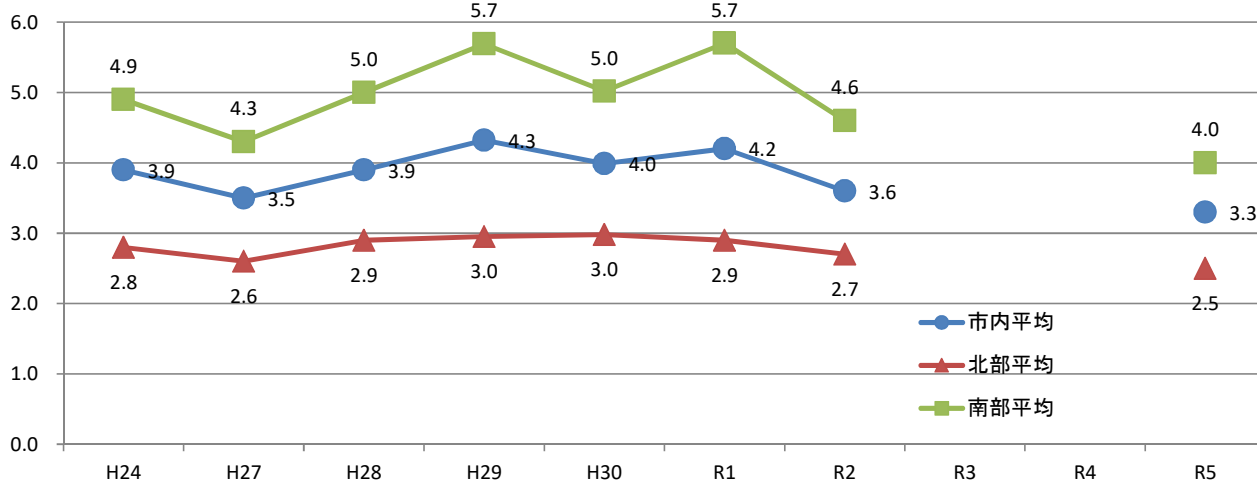
成果指標の分析

前年度と比べ2.6ポイント悪化、基準値と比べ8.9ポイント悪化しており、順調ではない。今年度は降下ばいじん量が改善されているが、市民の実感に結びついておらず、例年と同様に、市南西部の大田、横須賀地区は、指標の割合が高くなっている。

目指す方向性

40%

成果指標4 降下ばいじんの量 (t/km²・月)



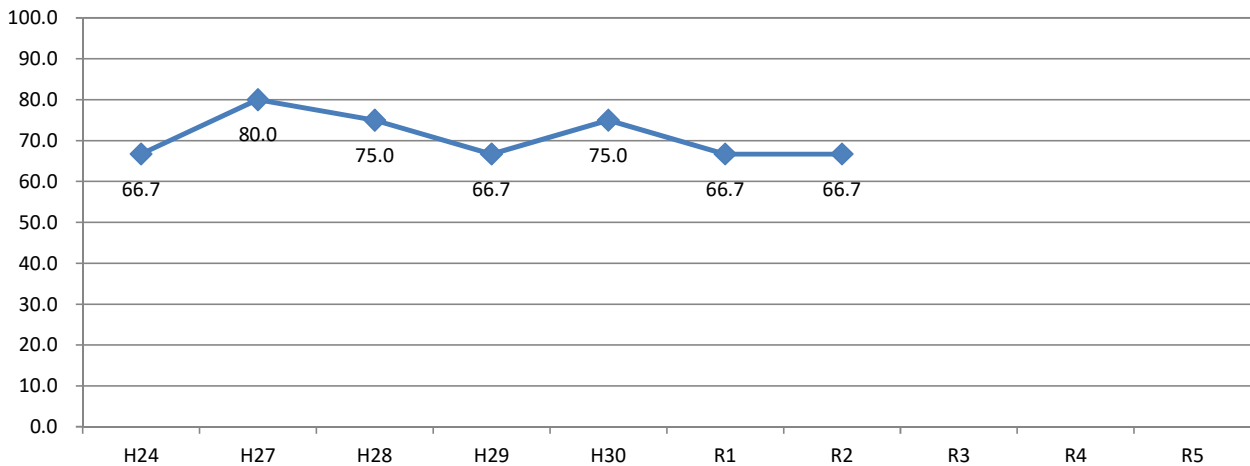
成果指標の分析

前年度と比べ0.6t/km²・月改善、基準値と比べ0.3t/km²・月改善しているが、新型コロナウイルス感染症による企業活動の停滞等の影響と考える。事業所等の発生源対策は進んでいるものの、市南西部では北部に比べて、高い数値となっている。

目指す方向性

3.3t/km²・月(市内)
2.5t/km²・月(北部)
4.0t/km²・月(南部)

成果指標5 環境騒音基準値の適合率(%)



成果指標の分析

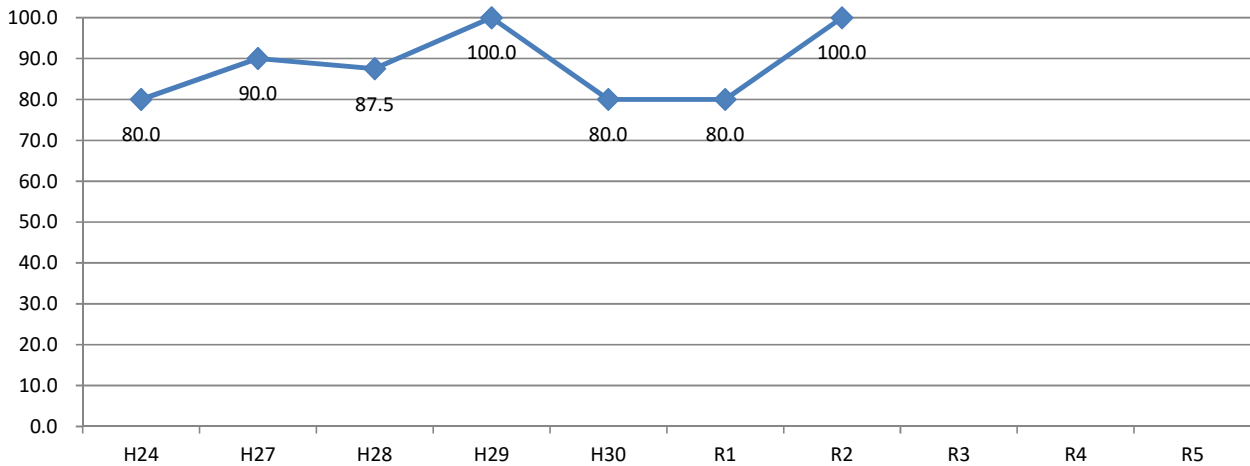
前年度及び基準値と同数値であり、横ばいで進展している。
 昼間時間帯（6-22時）と比べ、夜間時間帯（22-6時）の適合率が低い。

目指す方向性



増やす

成果指標6 自動車交通騒音基準値の適合率(%)



成果指標の分析

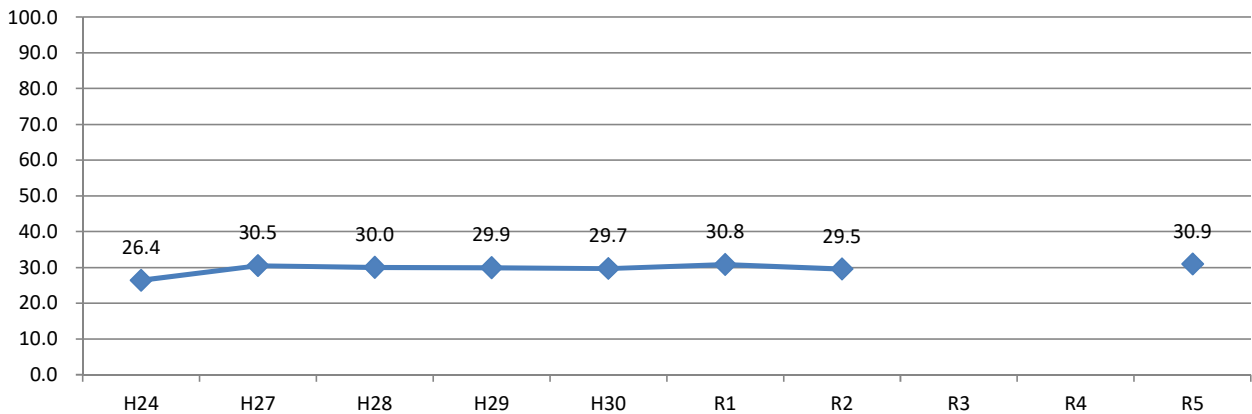
前年度及び基準値と比べ、どちらも20ポイント改善したが、毎年度80%から100%の間で増減を繰り返しており、横ばいで推移している。

目指す方向性



増やす

成果指標7 市内の川の水がきれいであると感じている人の割合(%)



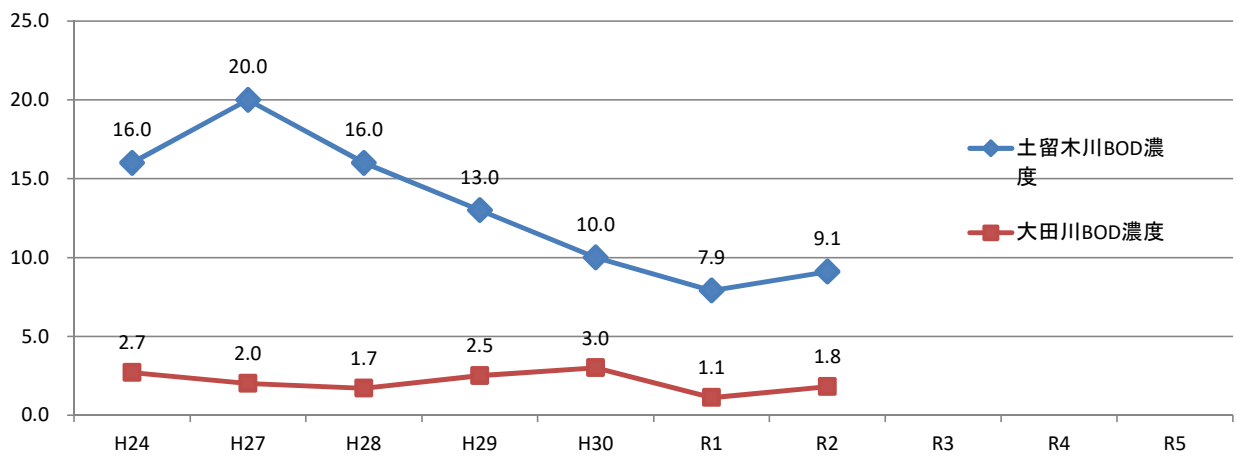
成果指標の分析

基準値と比べ3.1ポイント増加したが、前年度と比べ1.1ポイント減少しており、近年は横ばい傾向である。年齢別では高齢者層の数値が他の年齢層に比べて大幅に高いことから、昔に比べると川の水は大幅にきれいになってきているが、若年層などを中心に十分だと感じていない人が多いと考える。

目指す方向性

30.9%

成果指標8・9 河川のBOD濃度(mg/ℓ)



成果指標の分析

土留木川は、基準値と比べ6.9mg/ℓ改善しており、下水道接続率の向上の影響と考える。
大田川は、基準値と比べ0.9mg/ℓ改善しており、低い数値で推移しているが、これは下水道整備が進んでいることが影響していると考えられる。

目指す方向性



減らす

1 前回（令和元年度（2019年度））の評価内容

大気の指標が順調に推移していないため、降下ばいじんについては、これまでの対策を継続しつつも、愛知県を含む行政機関、事業者及び市民と情報共有を深め、より効果的な対策について検討を進める。

2 令和2年度（2020年度）の主な事業等

【主な事業】

- （継続）大気分析事業
大気汚染自動測定器による大気環境測定及び降下ばいじん等の個別の項目における測定を実施した。環境基準のある項目については、光化学オキシダントを除き適合した。なお、光化学オキシダント、愛知県の全測定局において基準値未達成。
- （継続）騒音測定事業
市民に住みよい環境を保全するため、騒音測定をした
 - ・環境騒音測定 6地点 基準値適合率 66.7%
 - ・自動車騒音測定 5地点 要請限度適合率 100%
 - ・自動車騒音の面的評価（道路調査、騒音調査）
基準値適合率 94.6%
 - ・夜間工場騒音測定 7事業所 全事業所において協定値適合
- （継続）臭気分析事業
空気のきれいな住環境を維持するため、臭気を測定し、事業者の対策状況を確認した
 - ・測定方法 三点比較式臭袋法による測定
 - ・測定地点 9地点（3事業所）全測定地点において規制値適合
- （継続）水質分析事業
住みやすい環境を維持するため、河川、ため池、事業所の水質を分析した
 - ・分析内容 河川(8地点)、ため池(16地点)、工場排水(15地点)の水質分析

3 令和2年度（2020年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

水質、騒音の指標は横ばいで、大気の指標は順調でない。
降下ばいじん量については、新型コロナウイルスの影響による企業活動の停滞等の影響により減少したが、市民の実感には繋がっていない。事業所が市民に対して取組の成果を説明する機会を増やすことが必要だと考えられる。

4 令和3年度（2021年度）以降の取組み方針

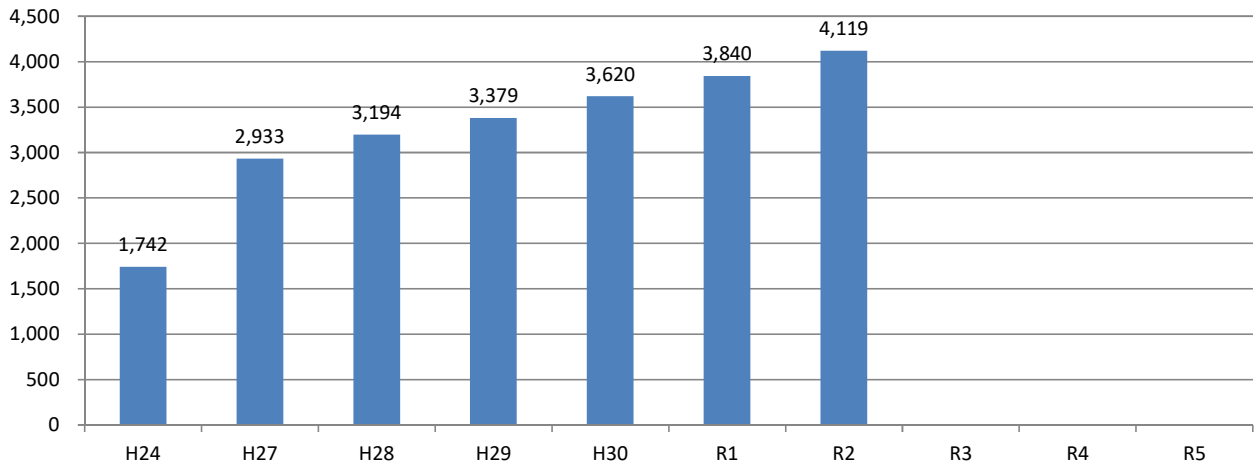
引き続きこれまでの対策を継続しつつ、愛知県を含む行政機関、事業者及び市民と情報共有を深め、より効果的な対策について検討を進めていく。
また、事業者が市民に対し取組の成果を説明する機会を増やすよう、市から事業所に対して働きかけるとともに、市として広報やホームページを活用し、事業所の降下ばいじん対策の紹介を実施していく。

環境分野 5

地球温暖化対策

低炭素なまちづくりを目指す

成果指標10 太陽光発電システムの累計設置件数(件)



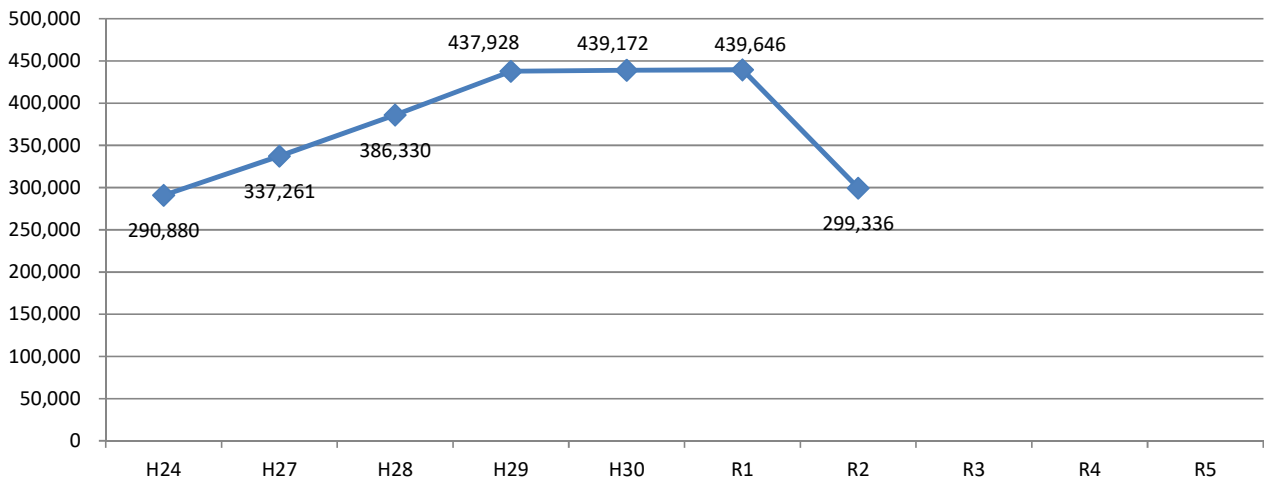
成果指標の分析

累計設置件数は、基準値より2,377件、前年度から279件増加し、順調に増加している。過去5年間の平均増加数は240件であり、平均より39件多い。
住宅用地球温暖化対策設備導入促進補助事業の効果が表れていると考える。

目指す方向性



成果指標11 らんらんバスの年間利用者(人/年)



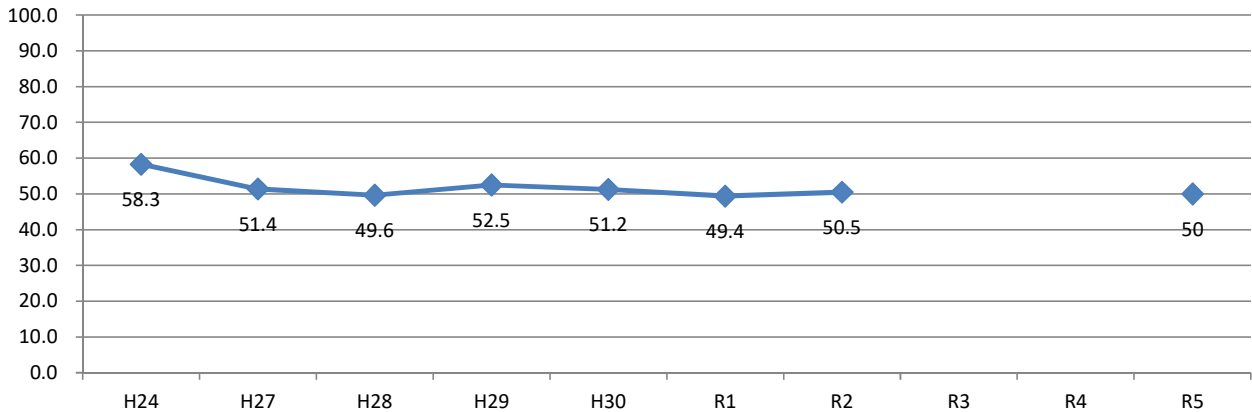
成果指標の分析

令和2年度に、利用者の利便性向上を図ったルートの変更をおこなったが、新型コロナウイルスの影響により大きく減少し、基準値からは8,456人上回るものの、前年度に比べ140,310人の減少となった。

目指す方向性



成果指標12 地域内にポイ捨てが目立つと感じる市民の割合(%)



成果指標の分析

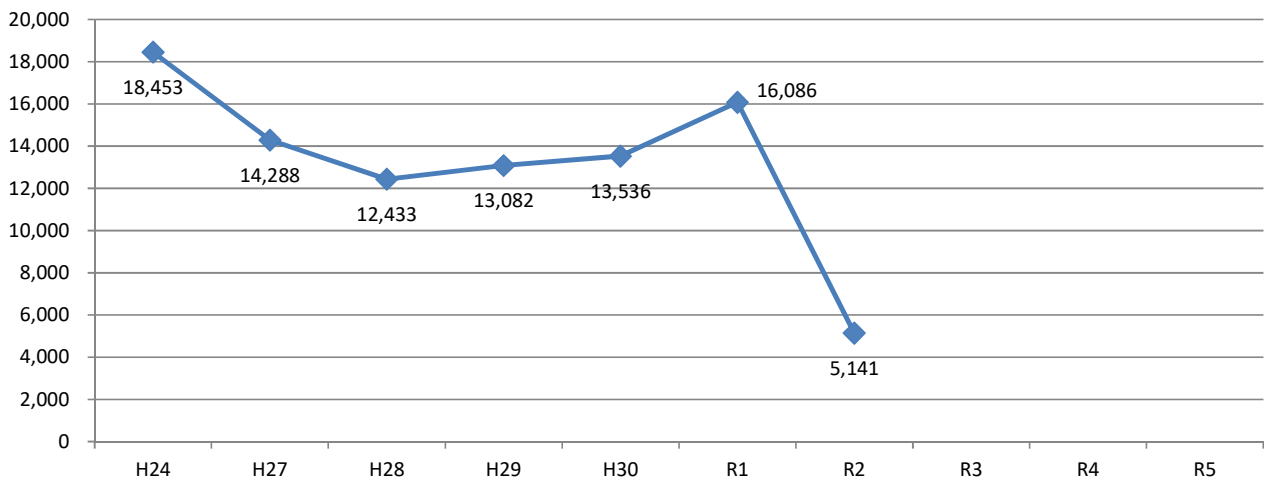
基準値と比べ7.8ポイント改善しているが、前年度と比べ1.1ポイント悪化しており、近年は横ばい傾向が続いている。
学区別では南部地区に比べ北部地区の割合が高く、北部幹線道路緑地帯のごみの多さが原因と考える。

目指す方向性



減らす

成果指標13 地域の清掃活動に参加した人数(人)



成果指標の分析

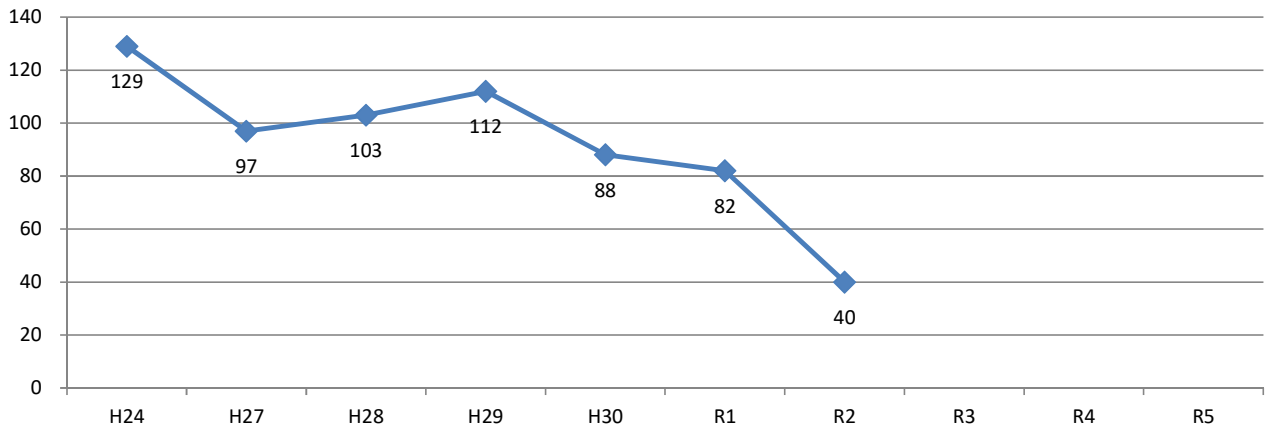
新型コロナウイルスの影響により大きく減少し、前年度と比べ10,945人、基準値と比べ13,312人下回った。
ごみ散乱防止市民行動月間のコミュニティ・町内会連合会の一斉清掃活動や、事業所・団体の自主清掃活動等の大規模な清掃活動の多くが中止となったことが影響した。

目指す方向性



増やす

成果指標 1 4 地域の清掃活動に参加した団体数（団体）



成果指標の分析

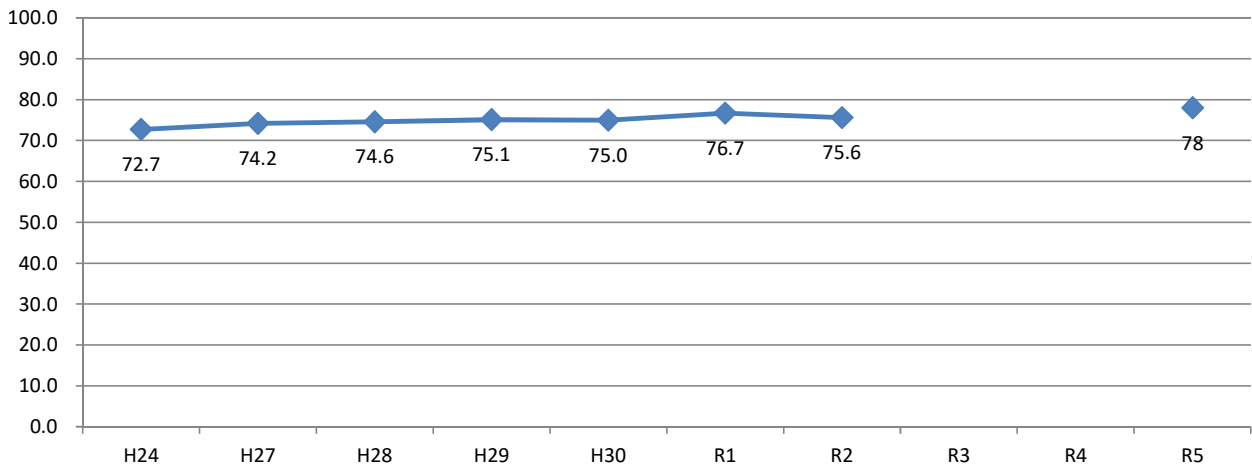
前年度と比べ42団体減少し、基準値と比べ89団体減少した。
 ごみ散乱防止市民行動月間のコミュニティ・町内会連合会の一斉清掃活動や、事業所・団体の自主清掃活動等の清掃活動の多くが中止となったことが影響した。

目指す方向性



増やす

成果指標15 花や緑が充実していると思う人の割合(%)



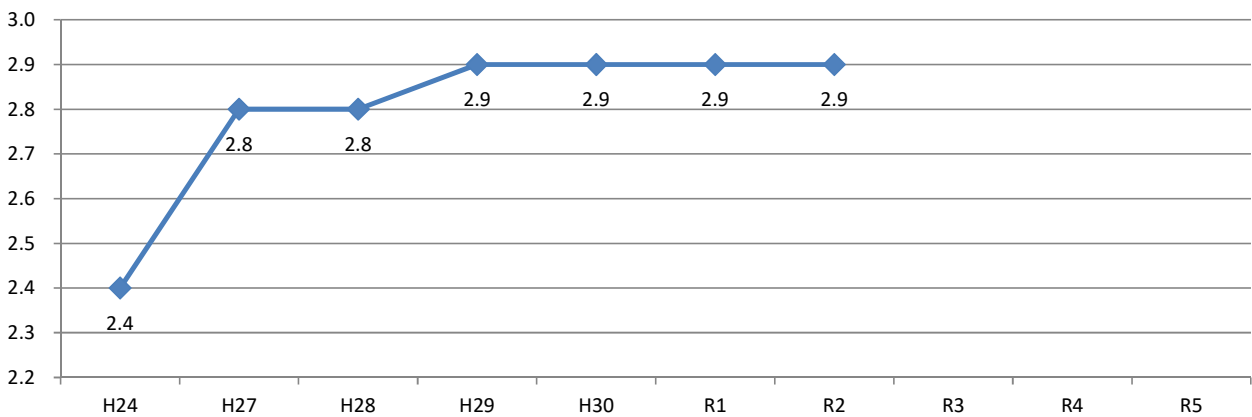
成果指標の分析

基準値と比べ2.9ポイント増加しているが、前年度と比べ1.1ポイント低下しており、近年は横ばい傾向である。
年齢別、学区別では大きな傾向差がないが、男女別では、男性の割合が低い。

目指す方向性

78%

成果指標16 東海市の面積に対する都市公園面積の割合(%)



成果指標の分析

基準値と比べ0.5ポイント増加しているが、前年度と同数値であり、近年は横ばい傾向である。
都市公園は計画的に整備を進めているが、近年は都市公園の供用開始に至っていないため、横ばいとなっている。

目指す方向性



増やす

1 前回（令和元年度（2019年度））の評価内容

清掃活動の参加者数及び参加団体数の指標は天候等の影響もあり順調でないため、引き続き、これまで実施している対策や普及啓発活動を地道に実施するとともに、地球温暖化対策等の環境美化以外の事業においても、取り巻く環境に対応していけるよう新たな対策を検討する必要がある。

2 令和2年度（2020年度）の主な事業等

【主な事業】

- （継続）住宅用地球温暖化対策設備導入促進補助事業
再生可能エネルギーの利用の促進のため、住宅用太陽光発電システム、HEMS、定置用リチウムイオン蓄電システム、家庭用燃料電池システム、電気自動車等充給電設備及び高性能外皮の設置に対して補助をした。
 - ・補助実績 HEMS11件、家庭用燃料電池システム15件、
電気自動車等充給電設備2件、一体的導入31件
- （継続）地域美化推進事業
ごみのないまちづくりを目指すため、不法投棄監視パトロール、不法投棄ごみの回収、道路等公共施設の清掃等を実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により、地域美化活動については、活動が大きく停滞した。
 - ・不法投棄監視パトロールによるごみの回収量 9,970kg
- （継続）自然環境再生事業
『ふるさとの自然』を保全・再生し、ホタル、アサギマダラ等の身近な生き物とふれあい、自然環境を守り育てていくことの大切さを学ぶイベントを開催した。
 - ・場所 加木屋緑地
 - ・内容 フジバカマ植栽会(6月)、自然観察会(4回)
 - ・参加者数 139人(4回)

【改善点等】

（新規）地球温暖化対策として、市が保有する公共施設における温室効果ガス排出量削減に係る計画や、環境に配慮した契約について検討を行った。

らんらんバスについて、バスロケーションシステムの導入等により、利用者の利便性向上を図った。

（変更）らんらんバスについて、安全運行に配慮したダイヤ改正及び朝夕便やルート延伸を含む利用者の利便性向上を図った。

3 令和2年度（2020年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

新型コロナウイルスにより、らんらんバスや清掃活動関連の指標は大きく影響を受けている。また、それ以外の指標は概ね横ばいで推移していると評価する。

コロナ禍における感染症対策を徹底しつつ、各指標における対応や普及活動を引き続き実施する必要がある。また、地球温暖化対策について対応を進める必要がある。

4 令和3年度（2021年度）以降の取組み方針

引き続き、これまで実施している対策や普及啓発活動を地道に実施するとともに、新型コロナウイルス感染症に対応できるよう「新たな生活様式」に順応した対策を検討していく。

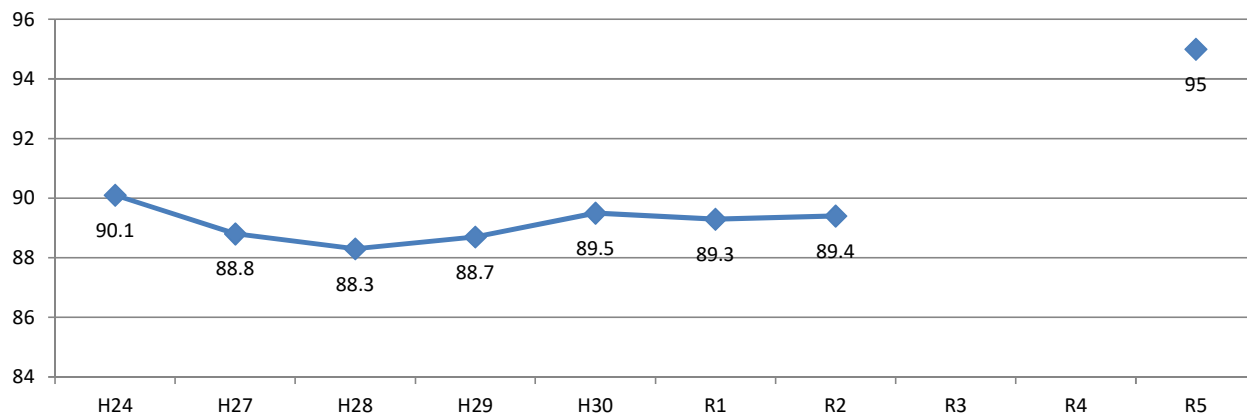
世界的な流れである地球温暖化対策・脱炭素化に向けて、市の公共施設における計画を国のロードマップ等を踏まえ改定するとともに、市域全体の計画の策定に向けて検討を進めていく。また、市民や事業者が身近な問題として認識できるよう地球温暖化対策の啓発を行う。

環境分野 8

3 R活動

ごみ減量と資源化を推進する

成果指標17 ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合(%)



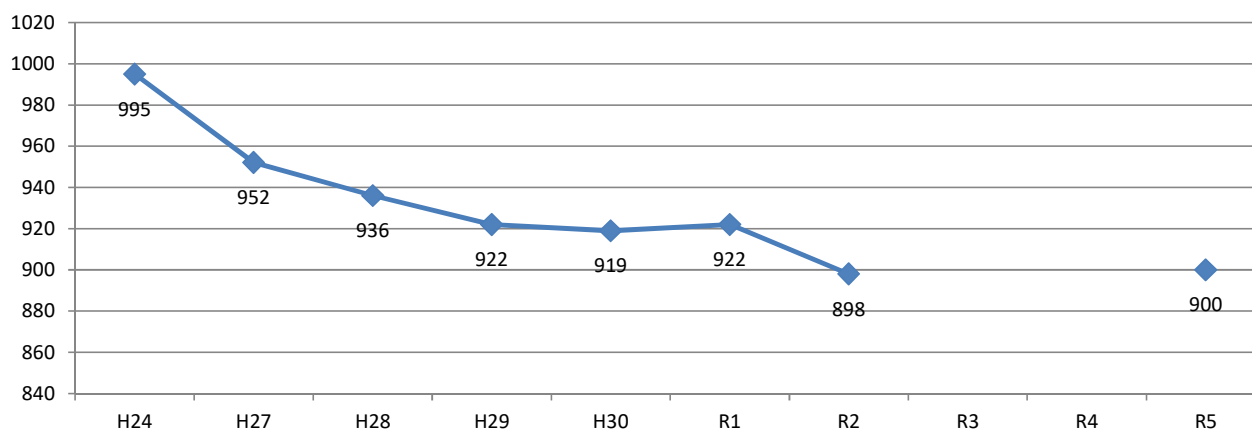
成果指標の分析

基準値と比べ0.7ポイント悪化しているが、前年度と比べ0.1ポイント改善し、高い割合を継続的に維持しており、横ばいであるが良好な数値である。
年齢別では若い層が低く、また、職業別では学生と会社員・公務員が低くなっており、この状態は基準年度以降続いている。

目指す方向性

95%

成果指標18 市民一人当たりのごみの総量(g/人・日)



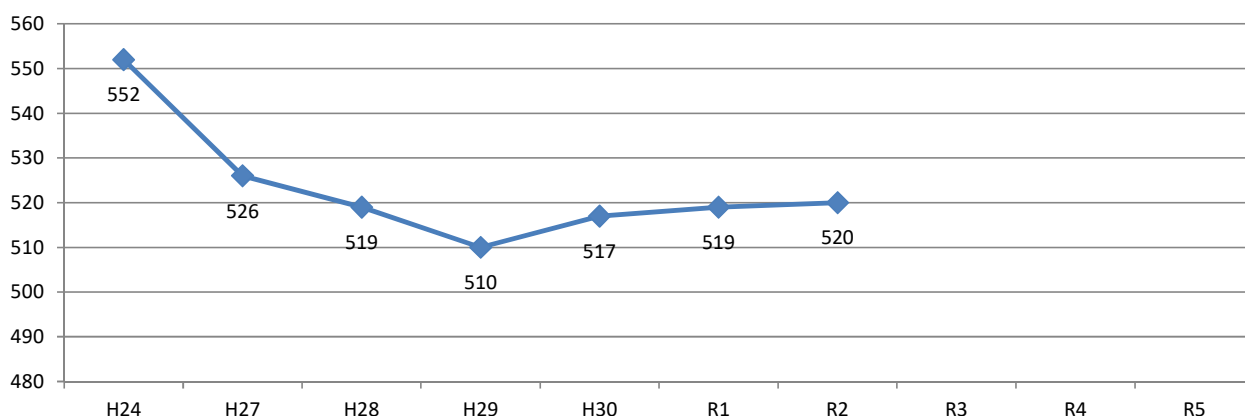
成果指標の分析

一人1日当たりのごみの総量は減少傾向であり、前年度と比べて24g/人・日減少し、目指す方向性で示された900g/人・日を下回った。
新型コロナウイルス感染症の影響等に伴う事業活動の縮小により、事業系ごみの総排出量が減少したことが要因と考えられる。

目指す方向性

900g/人・日

成果指標19 市民一人当たりの家庭系ごみの排出量(g/人・日)



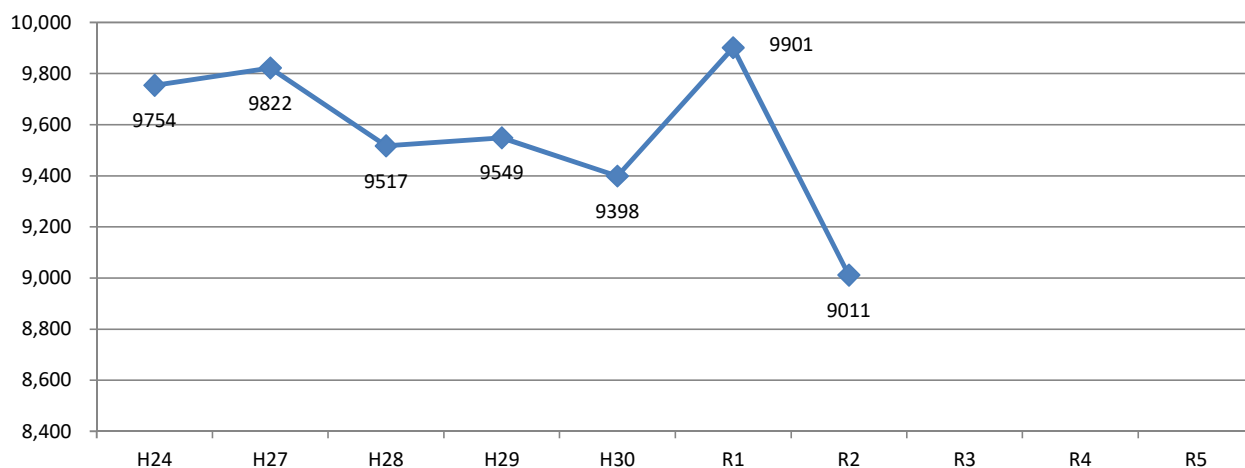
成果指標の分析

基準値と比べ32g/人・日の改善となっているが、前年度と比べ1g/人・日増加している。新型コロナウイルス感染症等の影響による在宅時間の増加が要因と考えられる。

目指す方向性

 減らす

成果指標20 事業系ごみの総排出量(t)



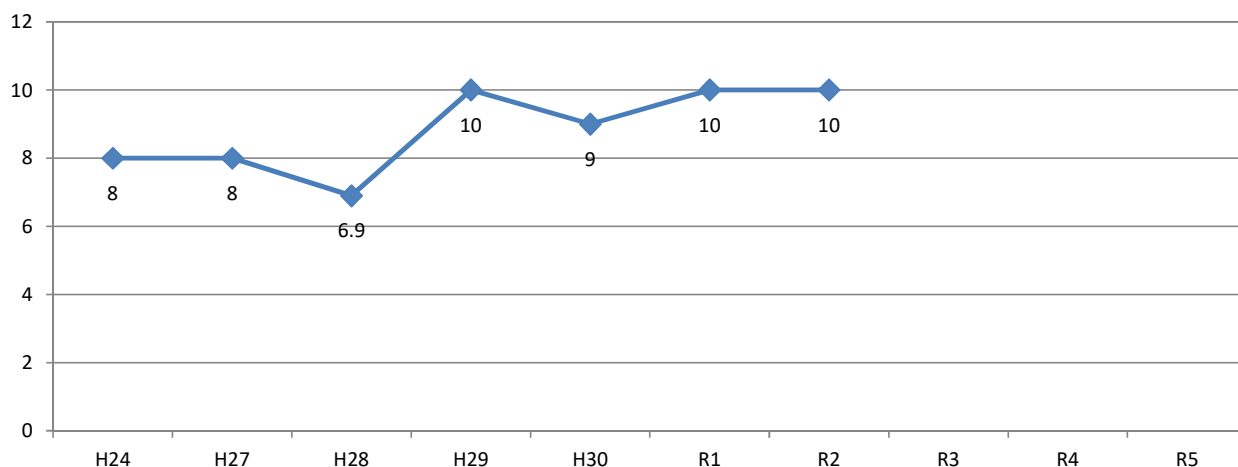
成果指標の分析

事業系ごみの総排出量は前年度に比べ約890t減少し、基準値から約743t減少した。新型コロナウイルス感染症等の影響により、民間事業所の活動が縮小したことが要因と考えられる。

目指す方向性

 減らす

成果指標21 プラスチック製容器包装の不適合物(%)



成果指標の分析

基準値と比べ2ポイント悪化しており、前年度からは変化がない。
 資源材料の品質向上のため、H29(2017)に中間処理設備の見直しなどを行ったため、不適合物の混入割合は10%前後で推移している。

目指す方向性



減らす

1 前回（令和元年度（2019年度））の評価内容

ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合について、若年層に改善の余地が大きいため、生活情報アプリの活用等を含め、PR方法を検討しつつ、より一層の啓発活動を行っていく必要性がある。

また、一方で高齢者層の増加及び終活意識の向上に伴うごみの排出量増加が考えられるため、高齢者向けの啓発活動も検討していくとともに、より効果的に実態を把握できる指標について検討を進める。

2 令和2年度（2020年度）の主な事業等

【主な事業】

●（継続）3R活動講座等運営事業

東海市エコスクール関連講座「エコって工作2020」を開催した。

- ・開催日 R2(2020). 8. 22
- ・内容 紙パックなどの不用品を活用した工作・雑貨製作体験
- ・参加者数 32名

●（継続）資源集団回収事業

ごみの減量と再資源化を推進するため、町内会・自治会・子供会等が行った資源の集団回収を支援した。

- ・団体数 112団体 ※R2(2020). 4. 1時点
- ・回収品目 紙類、缶類、びん類、布類
- ・回収量 2,109 t

【改善点等】

（新規）食品ロス削減啓発のため、エコって工作の開催に併せてフードドライブを実施し、市内の子ども食堂等に届けた。

3Rを活用し、環境に配慮した片付けの方法を学べる講座の実施に向けた検討、計画をした。

3 令和2年度（2020年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

「ごみ減量、リサイクルを心掛けている人の割合」について、高い水準で推移していると分析するが、近隣市町村と比較し、高い水準なのかを確認する必要がある。

市民一人当たりのごみの総量は、減っているが事業系ごみの減少が大きく影響している。

新型コロナウイルスの影響によりテイクアウトによるごみが増加してきていると思われるが、市民の方が分別することでごみの量が抑えられていると思われる。

市民一人当たりの家庭系ごみの排出量が減っていないことからさらなる分析を進め、対策の具体化に努める必要がある。

4 令和3年度（2021年度）以降の取組み方針

ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合について、若年層に改善の余地が大きいため、生活情報アプリを始めとした市の情報媒体によって啓発活動を行っていく。

また、令和3年度に実施する3Rを活用した片付け講座の結果、反響を踏まえ、終活、家財整理等により大量に排出されるごみの減量のための啓発について検討する。

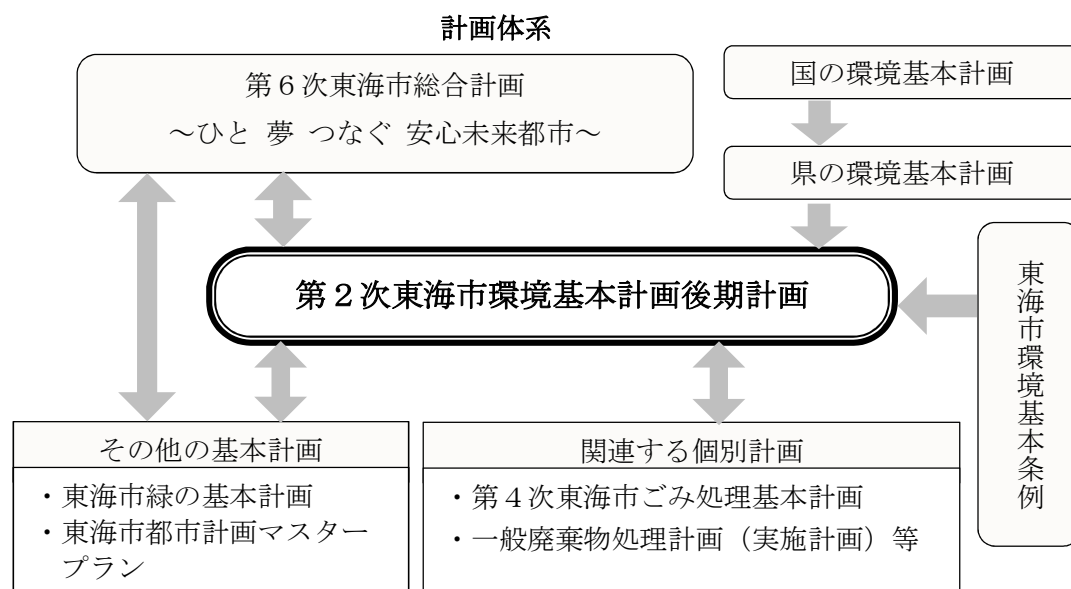
参考資料

1. 環境基本計画の概要

(1).計画の推移及び体系

本市では、平成17年(2005年)に「東海市環境基本条例」を制定し、この条例に基づいて、平成19年度(2007年度)に「東海市環境基本計画」を策定しました。本市は、この計画にビジョンとして掲げた「未来につなぐ 美しいふるさと東海」を実現するため、市民、事業者、地域・団体、行政の協働を推進し、さまざまな環境施策を推進してきました。

平成28年度(2016年度)には、本市を取り巻く課題や社会環境の変化に対応するとともに、環境行政の適切な運用に役立てるため、「第2次東海市環境基本計画」を策定し、さらに、令和元年度(2019年度)には、平成30年度(2018年度)に上位計画である第6次東海市総合計画後期計画が策定されたことを受けて、「第2次東海市環境基本計画後期計画」を策定しました。



(2).計画の期間

上位計画である第6次東海市総合計画の施策や指標との整合性を図るため、次のとおりの期間としています。



(3).計画の推進主体

本計画の推進主体は、市民、事業者、地域・団体、行政です。それぞれの立場でそれぞれの役割を担い、相互に連携を図りながら、積極的に行動することが必要です。

(4).計画のビジョン

本市では、公園や緑地の整備による美しいまちづくりや、下水道整備による河川等の浄化、気軽に健康づくりのできる環境の提供など、市民生活を取り巻く環境の改善に向けた取り組みを行ってきましたが、近年は、地球規模で進む温暖化や、生物多様性に対する環境問題等への関心が高まってきています。

第2次東海市環境基本計画では、東海市環境基本計画のビジョンである「未来につながる美しいふるさと東海」の将来都市像を継承し、環境に配慮したまちづくりと持続可能な循環型社会の実現を目指して、美しいふるさとの東海市を未来に届けていきます。

<ビジョン>

未来につながる 美しいふるさと東海

快適な市民生活の再生と創造が進み、多くのひとが環境に配慮した行動を行うことや、身近な場所での生き物とのふれあいを通じて感動が生まれています。

そして、さまざまな世代のひとが健康に暮らしている「美しいふるさと東海市」に愛着を持ち、子どもたちがふるさとに誇りを持って生活している未来へとつなげています。

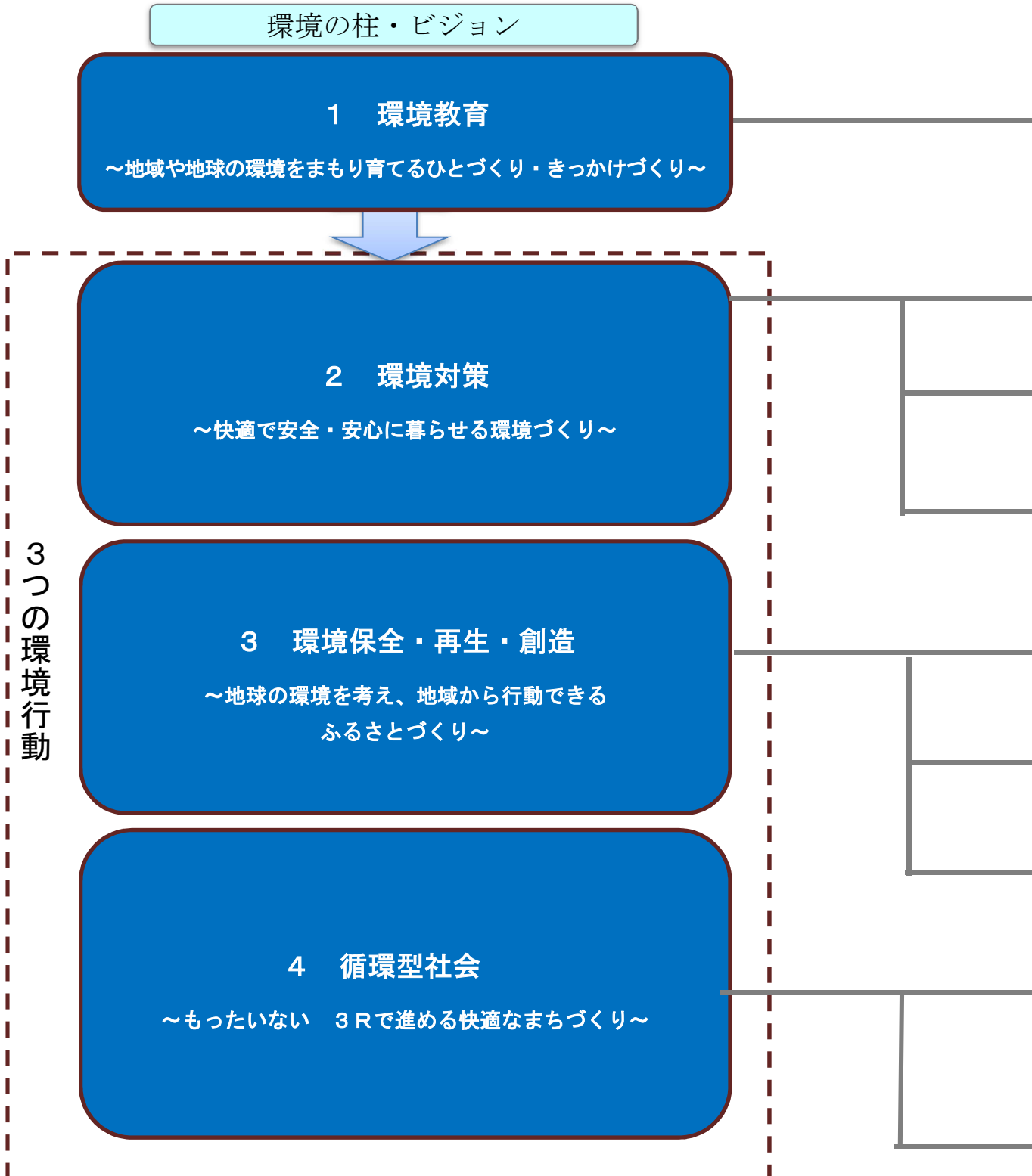
<めざすふるさとの姿>

- 多くの市民が環境にやさしい行動をしています。
- 空気がきれいで、快適に暮らしています。
- 地球温暖化に関心を持つ人が増え、温室効果ガスの排出抑制に努めています。
- 緑（公園・緑地）や水（河川・池）がつながり、生物が身近に生息し、人と自然が共生しています。
- 「もったいない」意識が高まり食品ロスなどが少なく、ごみの分別が徹底され、資源が循環しています。

2. 環境の柱ごとの基本的な施策

1. 体系図

「環境教育」と、「環境対策」、「環境保全・再生・創造」、「循環型社会」の3つの環境行動が連携し、環境ビジョン「未来につなぐ 美しいふるさと東海」の実現を目指します。



環境分野・基本的な施策

行動計画

★環境教育

環境教育を推進する

環境教育・学習の推進

環境保全活動の担い手づくり

★大気・ばいじん

きれいな空気を守る

大気の調査・監視

公害の防止

★悪臭・騒音

悪臭・騒音の発生を抑える

悪臭対策

騒音対策

★水質

生活排水を適切に管理する

水質の調査・監視

水質環境の改善

★地球温暖化対策

低炭素なまちづくりを目指す

省エネルギーの推進

再生可能エネルギーの活用

低炭素型まちづくり

★環境美化

まちの環境美化を推進する

美化活動の推進

★緑・水・生き物

人と自然が共生できるように環境保全活動を推進する

緑地の保全・持続可能な利用

水環境・水循環の保全・持続可能な利用

生物多様性の保全・持続可能な利用

★3R活動

ごみ減量と資源化を推進する

リデュースの推進

リユースの推進

リサイクルの推進

★適正排出・処分

適正にごみの排出・処分を行う

ごみの適正排出・処分

3. 成果指標の算出方法

成果指標		算出方法
環境の柱1 環境教育		
1	エコスクールの参加者数	1年間のエコスクールの参加者数（事務局、保育園、公募及び関連講座分）
2	生活情報アプリの累計ダウンロード数	1年間の生活情報アプリのダウンロード数
環境の柱2 環境対策		
3	大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合	市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
4-1	降下ばいじんの量 （市内平均）	市内10箇所ですべて毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/10箇所
4-2	降下ばいじんの量 （北部平均）	市内北部地域5箇所（一番畑保育園、名和児童館、名和町吹付、名和東児童館、上野中学校）で毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/5箇所
4-3	降下ばいじんの量 （南部平均）	市内南部地域5箇所（ソラト太田川、文化センター、養父児童館、横須賀中学校、三ツ池保育園）で毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/5箇所
5	環境騒音基準値の適合率	環境騒音測定地点（市内6箇所）×2区分（昼間・夜間）で計12測定値が環境基準に適合している割合
6	自動車交通騒音基準値の適合率	自動車交通騒音測定地点（市内5箇所）×2区分（昼間・夜間）で計10測定値が要請限度を超えない割合
7	市内の川の水がきれいであると感じている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
8	土留木川のBOD濃度	BOD濃度の1年間の平均値（土留木川 竜ノ脇交差点）
9	大田川のBOD濃度	BOD濃度の1年間の平均値（大田川 大宮橋）

成果指標		算出方法
環境の柱3 環境保全・再生・創造		
10	太陽光発電システムの累計設置件数	中部電力株式会社と売買契約を締結している契約数の累計
11	らんらんバスの年間利用者数	1年間のらんらんバスの利用者数
12	地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
13	地域の清掃活動に参加した人数	この1年間で環境月間及び環境衛生月間の清掃活動に参加した企業・事業所、コミュニティ、町内会・自治会、子ども会、母親クラブなどの合計人数
14	地域の清掃活動に参加した延べ団体数	この1年間で環境月間及び環境衛生月間の清掃活動に参加した企業・事業所、コミュニティ、町内会・自治会、子ども会、母親クラブなどの合計団体数
15	花や緑が充実していると思う人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
環境の柱4 循環型社会		
16	東海市の面積に対する都市公園面積の割合	市内の都市公園面積/東海市の面積×100
17	ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合	市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100
18	市民一人当たりのごみの総量	【1年間のごみ(家庭系・事業系(可燃物+不燃物))の清掃センターへの総搬入量+分別収集・資源集団回収・ごみ集積場で回収した1年間の資源回収量+市で把握している民間で回収した1年間の資源回収量】/年間日数/人口
19	市民一人当たりの家庭系ごみの排出量	1年間の家庭ごみ(可燃物+不燃物)の清掃センターへの総搬入量/年間日数/人口
20	事業系ごみの総排出量	1年間の事業系可燃ごみの総重量+事業系不燃ごみの総重量
21	プラスチック製容器包装の不適合混合率	1年間に回収したプラスチック製容器包装の不適合物の混入割合。 プラスチック製容器包装に含まれる不適合物の総重量/プラスチック製容器包装収集量の総重量

4. 成果指標一覧表

	成 果 指 標	基準値 H24	R1	めざそう値(R5) めざす方向性
1	エコスクールの参加者数	971 人	1,310 人	↗
2	生活情報アプリの累計ダウンロード数	-	8,791 件	↗
3	大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合	45%	51.3%	40%
4	降下ばいじんの量(市内平均)	3.9t/km ² ・月	4.2 t/km ² ・月	3.3 t/km ² ・月
4-2	降下ばいじんの量(北部平均)	2.8t/km ² ・月	2.9 t/km ² ・月	2.5 t/km ² ・月
4-3	降下ばいじんの量(南部平均)	4.9t/km ² ・月	5.7 t/km ² ・月	4.0 t/km ² ・月
5	環境騒音基準値の適合率	66.7%	66.7%	↗
6	自動車交通騒音基準値の適合率	80%	80.0%	↗
7	市内の川の水がきれいであると 感じている人の割合	26.4%	30.8%	30.9%
8	土留木川の BOD 濃度	16.0mg/ℓ	7.9 mg/ℓ	↘
9	大田川の BOD 濃度	2.6 mg/ℓ	1.1 mg/ℓ	↘
10	太陽光発電システムの累計設置件数	1,742 件	3,840 件	↗
11	らんらんバスの年間利用者数	290,880 人/年	439,646 人/年	↗
12	地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合	58.3%	49.4%	50%
13	地域の清掃活動に参加した人数	18,453 人	16,086 人	↗
14	地域の清掃活動に参加した団体数	129 団体	82 団体	↗

		基準値 H24	R1	めざそう値(R5) めざす方向性
15	花や緑が充実していると思う人の割合	72.7%	76.7%	78%
16	東海市の面積に対する都市公園面積の割合	2.4%	2.9%	↗
17	ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合	90.1%	89.3%	95%
18	市民一人当たりのごみの総量	995g/人・日	922g/人・日	900 g/人・日
19	市民一人当たりの家庭系ごみの排出量	552 g/人・日	519 g/人・日	↘
20	事業系ごみの総排出量	9,753 t	9,900 t	↘
21	プラスチック製容器包装の不適合物混合率	8.0%	10.0%	↘

5. 計画推進の検討過程

- 令和3年（2021年）6月8日 第1回東海市環境基本計画推進委員会
「年次報告書の成果指標の評価について」
- 令和3年（2021年）8月17日 第2回東海市環境基本計画推進委員会
「年次報告書（案）について」
「環境に関する情報発信について」
- 令和3年（2021年）12月17日 第3回東海市環境基本計画推進委員会
「年次報告書の作成について」
「生活環境課ホームページの更新について」
「本市における地球温暖化対策について」

6. 環境基本計画推進委員会委員名簿

本年次報告書の作成にあたり、検討を行った委員を掲載

令和4年（2022年）1月時点

役 職	所属部会	氏 名	区 分
委 員 長	社 会 環 境	山 本 隆 明	事業者を代表する者
副 委 員 長 社会環境部会長	社 会 環 境	寺 島 賀 子	事業者を代表する者
副 委 員 長 生活環境部会長	生 活 環 境	倉 橋 和 宏	事業者を代表する者
副 委 員 長 廃棄物・リサイクル 部会長	廃棄物・リサイクル	深 谷 保	事業者を代表する者
委 員	社 会 環 境	近 藤 高 史	事業者を代表する者
〃	〃	栗 本 剛	事業者を代表する者
〃	〃	長谷川 貴 子	市内に在住する者
〃	生 活 環 境	南 川 陸 夫	NPO を代表する者
〃	〃	武 富 時 満	NPO を代表する者
〃	〃	吉 鶴 弥 生	市内に在住する者
〃	〃	加 古 博 之	市内に在住する者
〃	廃棄物・リサイクル	古 谷 仁 彦	NPO を代表する者
〃	〃	毛 利 まり子	NPO を代表する者
〃	〃	田 中 治 幸	市内に在住する者
		森 岡 良 枝	市内に在住する者

令和3年度（2021年度）版
環境基本計画年次報告書

●発行

令和4年（2022年）1月

●編集

東海市 環境経済部 生活環境課
清掃センター

東海市環境基本計画推進委員会

●お問い合わせ先

東海市 環境経済部 生活環境課

〒476-8601 愛知県東海市中央町一丁目1番地

TEL 052-603-2211/0562-33-1111

FAX 052-603-6910

URL <http://www.city.tokai.aichi.jp>

E-mail kankyoushou@city.tokai.lg.jp
